



2) ミレニアム開発目標 (MDGs)  
…2015年までに達成する項目  
ミレニアム開発目標として以下の8項目が採択された。

- 貧困と飢餓の撲滅
- 普遍的な初等教育の達成
- ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上
- 幼児死亡率の引き下げ
- 妊産婦の健康状態の改善
- HIV/エイズ、マラリア、その他の疫病の蔓延防止
- 環境の持続可能性の確保 (2015年までに安全な飲料水と基礎的な衛生設備を継続的に利用できない人々の割合を半減させる)
- 開発のためのグローバル・パートナーシップの構築

上記の8項目を達成するために、さらに21のターゲット、60の指標が設定された。

### 3) MDGsの達成状況と残された課題

2015年7月、潘基文(パン・ギムン)国連事務総長は「MDGs報告2015」を発表し、「極度の貧困をあと一世代でこの世からなくせるところまできた」、「MDGsは歴史上最も成功した貧困撲滅運動であった」と成果を強調したが、一方、①5歳未満児や妊産婦の死亡率削減については改善の兆しはみられたものの目標水準に及ばず、②女性の地位向上についても就職率や政治参加などで男性との間で大きな格差が残され、③環境面では、二酸化炭素の排出量が1990年比で50%以上増加しており、気候変動が開発の大きな脅威になっていることが明らかにされた。さらに、④達成状況は国別や地域ごとに大きな格差がみられ、依然として深刻な格差の問題と最貧困層や脆弱な人々が置き去りになってい



国連ミレニアムサミット 149カ国の首脳級が集合  
出所：[http://www.un.org/en/events/pastevents/millennium\\_summit.shtml](http://www.un.org/en/events/pastevents/millennium_summit.shtml)

ることも指摘された。

- 水問題に関し抜き出してみると、
- 水不足は世界人口の40%に影響を及ぼし、今後もその割合は増加する。
- 世界人口の91%が改良された飲料水資源を利用できるようになり、当初目標(76%達成)を5年前に達成し、新たに19億人が水道水へのアクセスを得た(総計で66億人、2015年)。
- だが3人に一人(24億人)が未だ改善されていない衛生施設を使用している。つまり9億4600万人が未だに野外排泄(野外トイレ)を行っている。
- など、まだまだ課題が山積であることを示唆している。

## 2. 持続可能な開発目標 (SDGs)

MDGsの後継として2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟国が2016年から2030年までの間で達成するために掲げた目標で、17の大きな目標(ゴール)と、それを達成するために具体的な169のターゲットで構成されている。

### 1) SDGsの17項目(ゴール)

- 貧困をなくそう

- 飢餓をゼロに
- すべての人に健康と福祉を
- 質の高い教育をみんなに
- ジェンダー平等の実現を
- 安全な水とトイレを世界中に
- ここまでの6項目をみると、開発途上国へのMDGsのフォローアップが強調されている。
- エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
- 働きがいも経済成長も
- 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 人や国の不平等をなくそう
- 住み続けられる街づくりを
- つくる責任つかう責任
- この6項目では途上国のみならず先進国のあるべき姿が求められている。
- 気候変動に具体的な対策を
- 海の豊かさを守ろう
- 陸の豊かさを守ろう
- 平和と公正をすべての人に
- パートナーシップで目標を達成しよう
- 最後の5項目では、地球環境全体を包括し、すべての人々が力を合わせ持続可能な社会を構築しようとする意気込みが感じられる。2015年までのMDGs達成の主眼は各国政府による開発目標であったが、2030年までのSDGsは、世界のすべ

ての人々の普遍的な目標設定であり、政府はもちろん、それ以外のステークホルダー（NGO、NPO、企業、地方自治体、市民団体など）による目標達成の取り組みが重要視されている。

## 2) SDGs…ゴール6「安全な水と衛生設備」の深掘り

ゴール6の具体的なターゲットについては、2016年3月から6月にかけて国連の専門家会議で討議・決定された。

- 6.1 安全で安価な十分な水の量へのアクセス
- 6.2 適切かつ平等な下水・衛生設備へのアクセス、野外の排泄をなくす
- 6.3 水質の改善として、有害な化学物質の排出を減らし、未処理の排水の半減、水の再生利用の促進、世界的に安全な水の再利用を目指す
- 6.4 すべてのセクターでの水利用の効率改善し、水不足に悩む人々の減少を
- 6.5 統合的な水資源管理として水の利用と循環だけではなく、流域や土地を一体として統合管理する、国境を越えた適切な協力推進
- 6.6 水に関する生態系の保全と再生、2020年までに山地や森林、湿地、帯水層や湖などの生態系の保全と再生に力を入れる
- 6.a 集水、海水淡水化、水の効率的利用、排水処理、リサイクルを含む開発。途上国の水と衛生分野で国際協力と能力構築支援を拡大
- 6.b 改善された水と衛生分野の管理において地域コミュニティへの支援と強化

特に興味の深い項目は、水に関する生態系の管理において、同じ

流域（国際河川）に位置する複数の国による適切な管理を求める内容で、「越境協調・水資源管理」の考え方が強調されている（ゴール6.5と6.6）。

## 3. 他のゴール項目達成に貢献する「水問題解決」

SDGsの目指す方向は、技術面だけではなく、すべてのステークホルダーの社会参加を強く求めていることである。現在の社会では、貧困、食糧問題、水やエネルギー、森林や気候変動などの問題は相互に複雑に絡み合っており鳥瞰図的な視野を持たないと解決策が見えてこない。例えばゴール6「水」の達成にはグローバル・パートナーシップ

が不可欠であり、強いガバナンスが要求されている。またすべてのゴールは水の問題解決とも深く関わっている。例えば安全な水へのアクセスが改善されると児童や婦人の家事労働時間を低減することになり、教育の改善、労働の機会の増進、貧困の撲滅、ジェンダー問題の解決、保健衛生の改善、しいては経済成長の礎となる可

能性を秘めている。

また下水道の技術的観点から、SDGsへの貢献策をみても大きな役割が期待されている。①安全で十分な水へのアクセス改善、②すべての人々に衛生的な環境を、③エネルギー問題の解決、④産業を支える技術革新の基盤、④住み続けられるまちづくり、⑤海と陸の豊かさを守ろう、など下水の得意分野である。

我田引水的に言えば「水問題の解決が最初に人権問題を解決し、その上で適切な水資源の運用と管理が行われれば、さらに経済成長を拡大させる、大きな呼び水」となるだろう。



国連/持続可能な開発サミット  
国連ニューヨーク本部（2015年9月）  
出所：<http://www.un.org/sustainabledevelopment/>



ゴール6「安全な水と衛生設備」  
(Ensure access to water and sanitation for all)  
出所：UNDP/India